

司式: 鮎川健一
奏楽: 堀口恵美

前奏:「バビロン川のほとりにて」(J.S.バッハ)

招詞: 神の家とは、真理の柱であり土台である生ける神の教会です。(1テモ 3:15b)

讃美歌 2「聖なるみ神は」

罪の告白・赦し

聖霊を求める祈り

朗読聖書①イザヤ書 61:1-9

◆貧しい者への福音

- 01 主はわたしに油を注ぎ/主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして/貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。打ち砕かれた心を包み/捕らわれ人には自由を/つながられている人には解放を告知させるために。
- 02 主が恵みをお与えになる年/わたしたちの神が報復される日を告知して/嘆いている人々を慰め
- 03 シオンのゆえに嘆いている人々に/灰に代えて冠をかぶらせ/嘆きに代えて喜びの香油を/暗い心に代えて賛美の衣をままとわせるために。彼らは主が輝きを現すために植えられた/正義の樫の木と呼ばれる。
- 04 彼らはとこしえの廃虚を建て直し/古い荒廃の跡を興す。廃虚の町々、代々の荒廃の跡を新しくする。
- 05 他国の人々が立ててあなたたちのために羊を飼い/異邦の人々があなたたちの畑を耕し/ぶどう畑の手入れをする。
- 06 あなたたちは主の祭司と呼ばれ/わたしたちの神に仕える者とされ/国々の富を享受し/彼らの栄光を自分のものとする。
- 07 あなたたちは二倍の恥を受け/嘲りが彼らの分だと言われたから/その地で二倍のものを継ぎ/永遠の喜びを受ける。
- 08 主なるわたしは正義を愛し、献げ物の強奪を憎む。まことをもって彼らの労苦に報い/とこしえの契約を彼らと結ぶ。
- 09 彼らの一族は国々に知られ/子孫は諸国の民に知られるようになる。彼らを見る人はすべて認めるであろう/これこそ、主の祝福を受けた一族である、と。

朗読聖書②マタイによる福音書 5:1-6《山上の説教を始める》

- 01 イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。
- 02 そこで、イエスは口を開き、教えられた。

◆幸い

- 03 「心の貧しい人々は、幸いである、/天の国はその人たちのものである。
- 04 悲しむ人々は、幸いである、/その人たちは慰められる。
- 05 柔和な人々は、幸いである、/その人たちは地を受け継ぐ。
- 06 義に飢え渴く人々は、幸いである、/その人たちは満たされる。

祈禱

真理の御言葉と御霊とをもって養い導いてくださる主イエス・キリストの父なる御神さま、聖名を褒め称えます。

季節の節目にあるとき、新たな日と共に神の思いにあつて礼拝の場へと呼び集められていること深く感謝致します。その中であつて私たちを御子イエスと結び、御子の復活の命によって真実にあなたに仕え得る者とされ

ますように。なお福音の希望に生かされることを覚え、弱きに力を与えてくださる主に感謝致します。

主は私たちに大いなる使命を与えてくださいました。それは“どの様な課題多き混乱を伴う出来事にあつても、信仰によってこの時代と世界に神の御業を証する”、ということ、主は私たちを良き目当てに導いてくださり、新たな霊と命が、永遠に亘って、あなたに仕える新しい力となる望みを与えられています。全ては神の偉大な御計画にあつて最善の働きとなることを願わずにはおれません。しかしその願いにありつつも、思い起こす日々は主の御心から遠くあつたことも覚えます。今より後も、神の思いを心深く留めるべく、改めて悔い改めを申し上げます。どうか、御前に立つに相応しい者となるべく主の御赦しの内にありますように。

使徒パウロは心の葛藤を覚える中でこう示しました。

被造物だけでなく霊の初穂を戴いている私たちも、神の子とされること、つまり体の贖われることを心の中で呻きながら待ち望んでいます。(ロマ8:23)

全ては主なる神のものであり、御子イエス・キリストによって既に救いを実現され、復活の命によって導いてくださるところに揺るぎない希望があります。また聖書は示します。

全ての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競争を忍耐強く走りぬようではありませんか、信仰の創始者、また完成者であるイエスを見つめながら。(ヘブ12:1-2)

私たちは御言葉の力を携え、この世の出来事を乗り越え、打ち勝ち、弱さを克服することが出来ますように。またそのような思いにあつて、ライブ配信により礼拝を献げている友のことも覚えます。共に御光の内に歩む者とされますように、御霊の導きと御助けを願います。

主に招かれた私たちは、世界の平和、また日本の平和のためにも祈ります。世界を脅かす戦乱、混乱、また自然災害の数々に翻弄される日々、また人の思いにある破壊行為が逸早く収まりますように。この世界に主の平安と慰め、祝福がありますように。共に主を見上げ、主の平和に生きる者となりますように。

これより告げられる御言葉が、主の御霊の導きを豊かに受けて届けられますように。また聴く私たちの心に備えられ、御業の働き手として遣わされていきますように。

主の御国を待ち望む諸教会の祈り、主の平和を祈り願う信仰の友の祈りと共に、尊き主イエス・キリストの聖名によって御前にお献げ致します。アーメン。

讃美歌 472「朝ごとに主は」

説教:「神の義と愛」

佃 雅之

朗読されました福音書の箇所は、聖書の中で最もよく知られているキリストの『山上の説教』です。『マタイによる福音書』の5章から始まり7章まで続く『山上の説教』は、“キリストの教えの神髄を表す”と言われていています。キリストは説教の冒頭で、“どのような人たちが幸いなのか”について語り始められます。前回は3節に集中して、「心の貧しい人々の幸い」について聴きました。「心が貧しい」というのは、「神を畏れる人」のことでありました。自分の無力さを知り、“神にのみ抛り頼む人”、“神に縋りつき、神と共に生きようとする人”、“そのために神を知ろうとして神に近づく者は幸いだ”とキリストは言われました。

キリストが山上から語られます「幸い」の教えは、この世での成功や富を手

に入れるという一時的なものではなく、永遠に約束されたものです。

『山上の説教』の冒頭に置かれています『幸いの教え』は前半と後半に分けることが出来ると言われます。今日読みました6節までが前半です。“神と人間との関係についての関係”について語られています。“神に対する人間の執るべき態度”と言ったら分かり易いでしょうか。後半は人との関係も含まれる『幸い』です。キリストは私たちの現実の世界、日常の問題をここで明らかにしていわれます。今朝は二つ目の幸いから聴きます。

「悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。」“何故「悲しむ人々」が「幸い」なのか?” 疑問が浮かびます。既に申し上げたことですけれども、キリストはこの説教を弟子たちと従ってきた人々たちに向けて語られています。ですから、ここでの「悲しみ」とは“弟子たちの悲しみ”、“信仰者の悲しみ”です。

今日、この礼拝に集められた私たちが、“本当に悲しむべきことは何か?”という言葉をキリストは此処で語られます。“信仰者はこの世を悲しむ、この世の罪を悲しむ”ということがあります。この世に悪があまりにも多いことを嘆き悲しむ人をキリストは“幸いだ”と言われています。「悲しむ」と訳されている言葉はギリシャ語(ペンセオー-πενθέω)で、「最も強い悲しみ」を表す言葉です。愛する人の死を悲しむときに用いられる言葉で、「涙を流す」という行為と深い関わりがあります。ルカによる福音書では、このキリストの言葉を、「今泣いている(クワイオー-κλαίω)人々は幸いである(ルカ6:21)」と伝えています。マタイは「悲しむ人々」と言い、ルカは「泣いている人々」と言い表しました。

《参考:「…今笑っている人々は、不幸である、あなたは悲しみに(「ペンセオー-πενθέω」) 未熟形「ペンセイセτε-πενθήσετε」悲しむようになる)泣くようになる。》(同25節)》

大切な者との関係を失ったり、壊されたり、あるいは、自分で壊してしまった時、私たちは涙を流して泣くことがあります。私たちは泣くほどに悲しい経験をします。そのような私たちがキリストは「悲しむ人々」「泣いている人々」と呼びました。泣くことが出来ないほど、涙も出ないほどに悲しいということもあるでしょう。そのような困難や悲劇に直面した時、私たちは“神は生きて働いておられるのか?”とします。“抛り頼むべき神は本当におられるのか?”と思うことでしょう。“なぜ、私は? なぜ私たちはこのような目に遭わなければならないのか?”、そのような疑問や問い、不信を持つことさえあります。しかし人生には悲しみだけが教えることが出来るものがあるのです。“悲しみは人生に偉大なことを見出すようになる源泉である”とも言えます。或る人は“どん底に達した時、あなたは神を見出す”と言いました。ですから、ここでキリストの言われている「悲しみ」というのは、「幸いなるかな!(マカリオス!)」という言葉に結び付いている「悲しみ」なのです。

私たちが本当に“悲しんでいるとき”、それは“自分の罪に気づいたときである”と言ってもいいかもしれません。「罪」というのは、神を神とせず、神に背を向ける生活をしていることであります。この罪を悲しむ心が、今の世の中では非常に少ないと思います。キリストの福音が広まらない理由の一つではないでしょうか。

この世の罪は、神に背を向けるという私たちの罪は、キリストを十字架にかけるほど大きなものです。しかし、罪に気づいて罪を悲しむ人は、私たちのために十字架で死んでくださったキリストの愛に触れることが出来ます。つまり、「悔い改め」です。悔い改めは信仰生活の最初の行為、始まりの時であります。悔い改めてキリストに近づけば近づくほど、自分が如何に弟子として不適切な者であるかを知らされます。

私たちは自分自身を周りの誰かと比較する限り、自分には信仰が与えられ、信仰生活を守っているのだから、何も悲しむ必要はないと考えるでしょう。しかし、信仰が与えられた者が問題にしなければならないことは、自分は誰かと比べて立派なのかどうかではありません。自分はキリストの弟子を名乗るに相応しいかどうか、自分の言葉と行いが御心に適っているのか、ということでもあります。キリストと同じようには出来ません。それでもキリストをよく見ていると、自分が何者か、何が足りないのか、どうすればいいのかということが映し出されてくるものです。私たちがキリストを見て、自分の高慢さに、配慮のなさに、思慮が足りないことに気づき、神への不信を悔やんだ、その時、キリストはこう語ってくださいます。“あなたの罪は赦された。”自分の罪を知り、自分の罪深さに気づいて、またこの世の中の姿を見て、嘆き悲しむ人々を神は慰めてくださいます。神に対する罪を悲しむ者は必ず大いなる慰めを経験します。罪を告白して、神が用意して与えてくださる罪の赦しを経験するとき、私たちは神の子として戴いている喜びを知ることが出来るようになるのです。

神の子とされています私たちに求められるのは「柔和」であることです。「柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ」とキリストは言われます。「柔和な人」とは、“神の恵みに打たれて頑なな自己主張を砕かれて柔らかくなった人”のことです。「柔和」は神の子の最も象徴的な特徴であると言っていいでしょう。“柔和なる王”、それがキリストです。キリストご自身が「わたしは柔和で謙った者であるからわたしに学びなさい(マタ11:29)」と言われる通りです。柔和でない者は誰彼構わず対立し、競い合い、争い合うこととなります。何時も何かカリカリしている、すぐ腹を立てる、相手が困るようなことをわざと言って来る、サタンが入り込んだのかと思うこともあります。キリストは、何処までも徹底して柔和な方でありました。私たちがキリストの柔和さについて知っています。“忍耐強く、謙遜に、御心に従い、父なる神に服従されたのがキリスト”です。

「柔和」という言葉(「プラウシ」πραύς/新約4例[不正や不義に対する優しさ])には、「親切」という意味もあります。「優しい」という意味もありますが、しかし聖書に記される「柔和」には、特に“不正や不義に傷ついている人に対する優しさや親切”を意味します。不正や不義に対しては、「怒り」という意味さえ持っています。キリストの態度が不正や不義に対して激しい怒りとなって現わされたことは福音書の至るところに出てきます。しかし怒りは、正しく用いることが出来なければ大きな害をもたらします。正しい怒りであるためには、利己的な怒りではなく、破壊的な怒りでもなく、救いの怒りでなくてはなりません。引き裂く怒りではなく癒しの怒りでなくてはなりません。

ファリサイ派の人々や律法学者たちの偽善に対して、また弟子たちの無理解や頑なさに対して、キリストは厳しい言葉と態度で臨みました。正しいことを貫くための力強さと忍耐強さ、また不正に対する怒りは、私たちの考える「柔和」ということからは随分とかけ離れているものです。しかしキリストがそうであったように、神に対する誠実さを貫くためには、時に怒りをもって諭そうとする態度も必要になることがあるのです。聖書の言う「柔和な人」というのは、“神への揺るぎない信頼を持っている人”のことです。但し此処で勘違いしてはならないのは“揺るぎない信頼”というのとは“自分の信仰が確かである”ということではありません。“神に抛り頼み、何時も御言葉に聴く、主に倣い、主に学ぶ、その姿勢を崩さない”という意味で“揺るぎがない”ということですから。“主との交わりの中に、幸いな自分を見出している人”のことです。

無力な罪人である私が、神に招かれ、神に赦されている恵みを知ったとき、自己主張から解放されて柔和な人になることが出来ます。神に全てを委ねることが出来るようになります。「柔和な人」になるというのは、自分の力によるのではなく、神との交わりから生まれるものです。

主に信頼する人、柔和な人は慌てることはありません。忍耐待つことが出来ます。今、起きていることに、たとえ不満があっても主に信頼するならば希望を見ることが出来るからです。滅多に人と争うことはありません。自分の力に任せて他人を押しつけていくことを神は喜ばれません。キリストに倣い、キリストに学び、神への揺るぎない信頼に生きる者には「地を受け継ぐ」という約束が与えられます。神を信頼し、人に譲ることのできる人に神は多くのものを任せます。「柔和な人」は神から多くのものを委ねられ、それを活かす人生を歩むようになるのです。

四つ目の「幸い」も同様です。「義に飢え渴く人々は、幸いである」。「義」というのは“神と正しい関係にある”ことです。私たちが活かしてくださる神と正しい関係になれば幸いを得ることは出来ません。常に神との関係を第一に考えながら、自分がどれほど霊的に、精神的に、物理的に、言葉や行いにおいて如何に貧しいのかということを知っている人のことです。キリストは此処で、飢えている人が食べ物を探し、空から喉が渇いている人が水を求めるように、“あなた方は神の義を求めていますか？”と問いかけています。その意味で、神を礼拝しない生活は神の義から外れてしまいます。神の御心から外れていますから、そこに真の幸いはありません。悩み苦しんでいる時、多くの人が教会から離れて別のことで気晴らしをしようと考へます。しかしそれは、一時的には悩みから逃れることが出来るかも知れませんが、根本的な問題の解決にはなりません。神との正しい関係を失い、御心から外れてしまっている姿、現実から目を逸らし自己中心に生きようとしている罪深い自分の姿に気づかなければなりません。

「神の義」という言葉の意味は「正しさ」です。神の「正しさ」、神はこの「正しさ」をどのように私たちに示されたのか。それは、罪人、神に背く者を赦して、救いに与らせて新しい命を与えることによって示されました。つまり、“不信仰な者を神に立ち返らせる”、これが「神の義」であります。キリストに拠り頼み信じる人は、その信仰によって義とされます。「義に飢え渴く」とは、罪の赦しを願うこと、神の前に正しくありたいと切に願うことです。キリストの福音は“信じる者全てに救いをもたらす神の力(ロマ1:16)”です。私たちを含めて私たちの暮らす社会は、あまりにも神を、神の恵みを蔑ろにしているのではないのでしょうか。私たちが求めるべきものは神の国、神の恵みの御支配とそこにある神の義です。私たちが義とされるのは恵みに拠ります。一方的な神の愛を私たちが受けるだけです。

今日で四つの祝福の言葉を聴きました。どの祝福も十分に理解するためにはキリストの言葉が私たちの肉とならなければなりません。私たちに“幸いなるかな!(マカオイ!)”と呼びかけてくださり、招いてくださる神の愛を知り、神の義に生きようとするとき、私たちが「慰められ・地を受け継ぎ・満たされた」道を歩むことが出来るのであります。人間は自分の力や努力で救いに達することは出来ないのです。滅びることのない永遠の命を与え、真の救いに私たちを導くことが出来るのは“わたしだ!・それはわたしのすることだ!”とキリストは山上から語ってくださっています。

お祈りを致します。

聖なる神、今日もあなたが、私たちに真の愛と義を示してください、祝

福を与えてくださる幸いを心から感謝致します。どうぞ、常に、あなたの御言葉と憐れみに充ちた聖霊の祝福によって、私たちがあなたのものとしてください。主の弟子として生きる私たちが、あなたを悲しませることがないように福音が支え導いてください。

これから聖餐を祝います。今日戴いた御言葉が私たちの心に書き記され、私たちの肉となり、あなたが与えてくださった命を喜び味わい知ることが出来るように。

主の聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:535「正義の主イエスに」

聖晩餐 使徒信条の告白 和解の挨拶

讃美歌:78「わが主よ、ここに集い」

献金・感謝(大隈道雄)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

天にいらっしやいます父なる神さま、聖霊降臨節第8主日、100周年を先月記念礼拝と記念講演会を終え、新しい歩みを始めておりますこの信濃町教会に幸がありますように。

山上より弟子たちに、そして今の私たちにもお語り下さった御言葉を感謝致します。この引き裂くような嘆き悲しみの中にある者、これからの歩みを不安と共に迎へようとしている者たちに、どうか、あなたの御光、御恵みがありますように。

今日はその御言葉を聴き、賛美を共にし、祈りを共にできますことを感謝致します。この会堂に集まった者たちは聖餐にも与ることが出来ました。感謝致します。どうかこの場を覚えながら、この場に与れない者、聖餐に与ることが出来ない者にあなたの顧みりがございますように。どうか私たちに幸せがありますように。私たちとあなたの関係が正しい道に置かれますように、どうかお導き下さい。

今日、私たちの夫々の生活の中に豊かに与えられております物を、御前にお献げ致しました。どうか、豊かにあなたが用いてくださいますように。

これからの一巡りを覚え、「主の祈り」をもって始めたいと思います。「主の祈り」…アーメン。

派遣:讃美歌90「主よ、来たり、祝したまえ」

派遣と祝福(司式:主は言われます。「私は誰を遣わすべきか。会衆:私がここにおります。私をお遣わし下さい。司式:「父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」と主は言われる。キリストの平和の使者として行きなさい。)

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告:週報の訂正:次週集会予定「支援特別委員会」を削除。

後奏:「アダムの罪によりて滅び」(J.S.バッハ)